



SAYONARA 国立競技場 FINAL “FOR THE FUTURE” ①

SAYONARA 国立競技場プロジェクトスタジアムツアー②

JA全農 2014年世界卓球団体選手権東京大会③

ラグビー場北スタンド防水改修及びその他工事
スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート



国立競技場 最後の日『SAYONARA 国立競技場 FINAL "FOR THE FUTURE"』

数多くの記憶に残る大会の舞台として長年親しまれてきた国立霞ヶ丘競技場。

その最後を飾るイベント『SAYONARA国立競技場FINAL "FOR THE FUTURE"』を2014年5月31日(土)に開催しました。全国から集まった約36,000人のみなさんと一緒に、56年にわたる歴史に感謝と敬意を表すとともに、そのレガシーを未来に引き継ぎました。今回は、その模様をお伝えします！

8:30~12:00 ファイナルファンランDAY~Thank you 国立~

一般参加者2,020名がトラックを走るファイナルファンランDAYがスタート。レジェンドランナーに瀨古利彦氏、有森裕子氏、宗茂氏、宗猛氏を迎え、5色のTシャツを身に着けたランナーたちは芝生の上でストレッチ。その後、ウォーミングアップを兼ねたスタジアムツアー、remember runへと続きます。フィナーレは、5色のTシャツの色別に5つの輪を作り、一斉にバルーンを放って国立競技場に別れを告げました。



ファイナルファンランDAYの様子



バルーンが放たれた瞬間

16:10 サッカーレジェンドマッチ

これまで数々の国際試合、Jリーグ、天皇杯で国立競技場を沸かせたサッカー元日本代表の選手等が集い、再び名勝負が繰り広げられました。

前後半20分ハーフ

LEGEND BLUE 2 対 LEGEND WHITE 2
(ドロー)

監督 岡野俊一郎氏

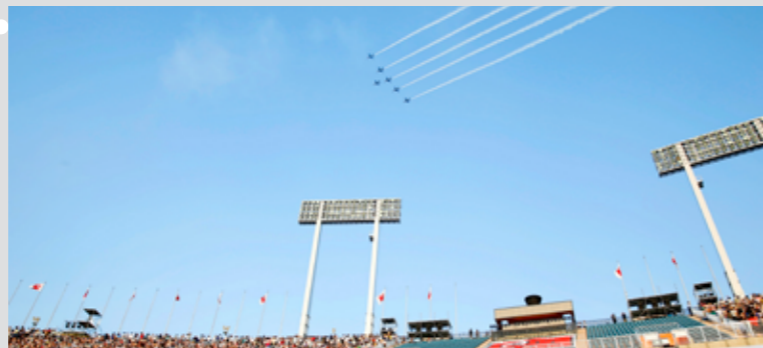
監督 鎌田光夫氏
※選手兼監督



サッカーレジェンド集合写真

17:30 ブルーインパルス展示飛行

防衛省の協力により、1964年の東京オリンピック開会式において日本中を大きな感動と歓喜の声に包んだブルーインパルスが、最後の国立競技場の上空で、再び華麗なフライト(展示飛行)を披露しました。



展示飛行の様子(リーダーズベネフィット隊形)

18:10 ラグビーレジェンドマッチ

伝統の早明戦、早稲田大学、明治大学OBのレジェンド選手が世代ごとに集い、再び名勝負を繰り広げました。熱戦の末、早稲田大学OBが全勝しました。

レジェンドマッチ 1st 10分 (50代選手)
レジェンドマッチ 2nd 20分 (40代選手/前後半 各10分)
レジェンドマッチ 3rd 20分 (30代選手/前後半 各10分)

早稲田大学OBレジェンド

監督 大東和美氏(昭和46年度卒 主将 元日本代表 前Jリーグチェアマン)

明治大学OBレジェンド

総監督 森重隆氏(昭和49年度卒 元日本代表)



ラグビーレジェンド集合写真

19:40 ファイナルセレモニー

ピアノによるオープニング、国立競技場の歴史を未来に紡ぐ聖火点灯リレー、アーティストによるライブ、56年という時間を光と映像とテクノロジーでよみがえらせる"FOR THE FUTURE"演出などにより構成されました。総合司会・フリーアナウンサー徳光和夫氏の進行により行われました。

「すべてのアスリートと、すべてのアスリートが生み出した奇跡に、感謝をこめて。THANK YOU.」のメッセージと共に聖火が消え、沈黙の後、「SEE YOU IN 2019」の文字が浮かび上がると同時に、盛大に花火が打ち上げられました。



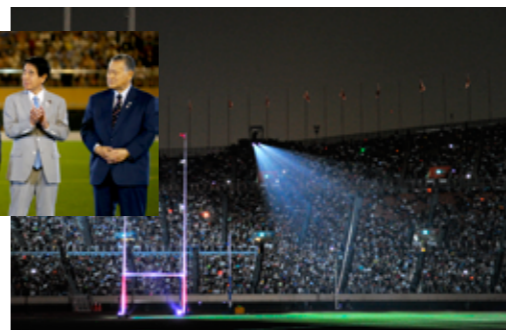
日本スポーツ振興センター理事長の河野一郎による主催者挨拶



国立競技場備品譲渡贈呈式(岩手県北上市市長 高橋敏彦氏・右)



グラウンドキーパー表彰(鈴木憲美氏・中央)



"FOR THE FUTURE"演出(光による演出の様子)

- オープニング映像
- ピアノ演奏
ピアニスト 辻井伸行氏
- 聖火点灯リレー
メルボルン・ローマ・東京オリンピック 金メダリスト 小野喬氏を始めとしたアスリートなどによるリレー
- 国歌独唱
海上自衛隊東京音楽隊 3等海曹 三宅由佳莉氏
- 主催者挨拶
・日本スポーツ振興センター理事長 河野一郎
・SAYONARA国立競技場プロジェクト実行委員会委員長 一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長 森喜朗
- 来賓挨拶
・文部科学大臣 下村博文氏
- 国立競技場備品譲渡贈呈式
・岩手県北上市市長 高橋敏彦氏が譲渡先を代表して参加(北上市には座席6,500席譲渡)
- グラウンドキーパー表彰
・これまで国立競技場の芝生を管理してきた方々を代表して、元国立競技場芝生管理責任者 鈴木憲美氏が受賞
- ARTIST LIVE
・谷村新司氏「昴」
・森山良子氏「今日の日はさようなら」
- 「蛍の光」大合唱
・指揮 都倉俊一氏
合唱 昭和音楽大学
- "FOR THE FUTURE" 演出
- 聖火消灯
- 花火 約700発

約700発の花火

21:10 ピッチ開放

その後、大切に育ててきたピッチが開放され、芝生に下り立った来場者は、寝そべったり裸足で踏みしめたりと、その感触を確かめるように思い思いに過ごしていました。

5年後再びこの地で会えることを約束してセレモニーは閉幕しました。



人でいっぱいになったピッチ



芝生に寝そべる子ども達

同日にサッカーとラグビーの試合を開催することや、その他多くのプログラムを同会場で実施することなど、国立競技場の歴史においても、類を見ないイベントとなりました。たくさんの方の国立競技場への想いと笑顔が溢れる中、この5月31日をもって、国立競技場は一旦役目を終え、新国立競技場に無事バトンタッチを行うことができました。

SAYONARA国立競技場プロジェクト スタジアムツアー

最終報告

前号(第602号)でもお知らせしましたが、「SAYONARA国立競技場プロジェクト」の一環として、長い国立競技場の歴史にふれ、現在の姿をしっかりと目に焼きつけていただこうと、スタジアムツアーを開催いたしました。

ツアーは1964年東京オリンピックの金メダリストが刻まれた銘盤からスタートし、グラウンドレベルからスタンド最上段の聖火台まで場内各所を回る内容でした。

100m走のスタートラインで地面に手をつき、スタートの姿勢を取って記念撮影する姿も見られました。



トラック第4コーナーには、1928年アムステルダムオリンピックで日本初の金メダルを獲得した織田幹雄選手の記録にちなんだ高さ15.21mの「織田ポール」が立っています。その脇に

「織田ポール」付近にできた人垣は東京オリンピックで使われたと言われている地下のサニスタンド(男女共用小便器)につながる入り口を公開していたことから、一目見ようと人垣ができました。

普段は入ることができない選手更衣室も人気が集まりました。ハーフタイムの終了など選手を外に誘導する際に使用するブザーを鳴らすという演出をしましたが、そのブザーを聞いて、グラウンドに向かわれた方からは「選手の気分になった」と喜びの声がありました。

国立競技場に刻まれた歴史は、スポーツだけではなくではありません。第二次世界大戦中の1943年、国立競技場の前身である旧明治神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会が挙行されました。競技場外の北側門脇にある、学徒出陣50周年を記念した「出陣学徒の碑」にも、多くのツアー参加者が足を運んでいました。



桜が満開だった頃の「出陣学徒の碑」



聖火台前にできた列

このツアーで一番の人気を博していたのは、やはり聖火台でした。スタンド最上段に鎮座する高さ2.1mの鋳物の前には、その姿を一目見て、カメラに納めようと長蛇の列ができていました。

初回の2014年1月14日から、最終日となる5月22日まで、44日間(1日2回開催)、全88回実施し、26,445名の方にご参加いただきました。

最終日には5,991名の方にお越しいただき、平日としては過去最高の参加者数となりました。

ちなみに、全体では5月4日(日)の6,677名が最高でした。



入場を待つ長蛇の列(最終日)

国立競技場で行われたスポーツやコンサートでの思い出をお持ちの方、初めて足を運んでいただいた方、1964年東京オリンピックを観戦された方など、それぞれの思いを胸に、国立競技場の歴史や伝統に触れていただくことができたのではないのでしょうか。

J A全農2014年 世界卓球 団体選手権東京大会

4月28日(月)～5月5日(月祝)の8日間、代々木第一体育館をメイン会場(代々木第二体育館:練習会場)として「J A全農2014年世界卓球団体選手権東京大会」が開催されました。

本大会には、117の国と地域から、男子110チーム・女子94チームが参加し、世界の一流選手たちによる熱い戦いが繰り広げられました。会場を埋め尽くした応援団の熱気あふれる中、女子日本代表は銀メダルを、男子日本代表は銅メダルを獲得しました。

また大会期間中には、園地を利用して「テレビ東京フェスティバル」も開催され、両イベントをあわせて10万5千人のお客様に国立代々木競技場にお越しいただき、大盛況のうちに終了しました。

大会が無事に終わり、施設管理等の観点からも現場の職員として、微力ながらお力になれたのかと思います。引き続きイベントが無事に実施できるように、努めてまいります。



銀メダルを獲得した女子日本代表 ©JA 全農世界卓球2014東京大会組織委員会



会場の様子 ©JA 全農世界卓球2014東京大会組織委員会

ラグビー場北スタンド防水改修及びその他工事

2013年10月23日から開始したラグビー場北スタンド防水改修及びその他工事が2014年3月10日完了し、3月22日、23日の東京セブズ2014からリニューアルして営業を開始しました。

■ ■ ■ 工事内容 ■ ■ ■

1 建築工事

北スタンドを3ブロックに分け盛替えをしながら、スタンド床面の高圧洗浄、床の欠損部補修、ウレタン防水、PC版連結部の目地シールの更新を行いました。

大型映像装置の正面の外壁パネルは新規の割付を行い、フッ素塗装仕上げで作製、東西面と北面の既存パネルは塗り替え、目地シール、屋根防水を更新しました。

スタンド周囲の立上り壁や天端は左官補修を行い塗装改修、ゲート内壁はラグビー協会と相談しジャパンカラー(赤)で塗装を行いました。

スタンド最下段通路東・西の階段(2箇所)改修工事を行い、上部にステンレス門扉を新設し、管理上必要に応じて閉鎖できるようになりました。

サイン工事としてスタンドの注意喚起(4箇所)及びスタンド非常口看板の撤去・新設(4箇所)を行いましたので、見やすいサインが復活しています。

メインスタンド3階の電光掲示板操作室内装仕上(壁)の塗装も行いました。



北スタンド全景

2 電気設備工事

(1) 大型映像装置工事

工事期間中もラグビー場の営業を休まず続けていたため、既設大型映像装置停止期間中に対応する仮設置を設置し、仮設操作室も北スタンド内に設置しました。

映像表示部は、アナログ映像方式からフルカラーLED映像表示方式に更新しました。表示面寸法がW12,400×H7,200からW14,400×H7,200に広がり、デジタル画像の時計表示と共に、全画面映像表示に切り替えて4種類の画面選択が可能になりました。ビデオシステムはデジタル方式に更新しハイビジョン化を図りました。表示画面が大きくなりましたが、平均消費電力は40KWから20KWに節電されています。

メインスタンドの電光掲示板操作室内の映像操作卓、PC操作卓、各種映像装置の更新工事を行い、また、東テニスコラブハウス内業務課事務室で監視できるテレビモニターを更新しました。

(2) その他電気工事

北スタンド下の人工芝生通路は、水銀灯ブラケット(4台)をLED照明に改修しました。3～4スパンに1台から各柱スパン毎(10台)に付くようにしたため従前よりも省エネでかつ明るくなり、選手たちのウォーミングアップに役立ちそうです。



人工芝生通路

スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート

第1回目

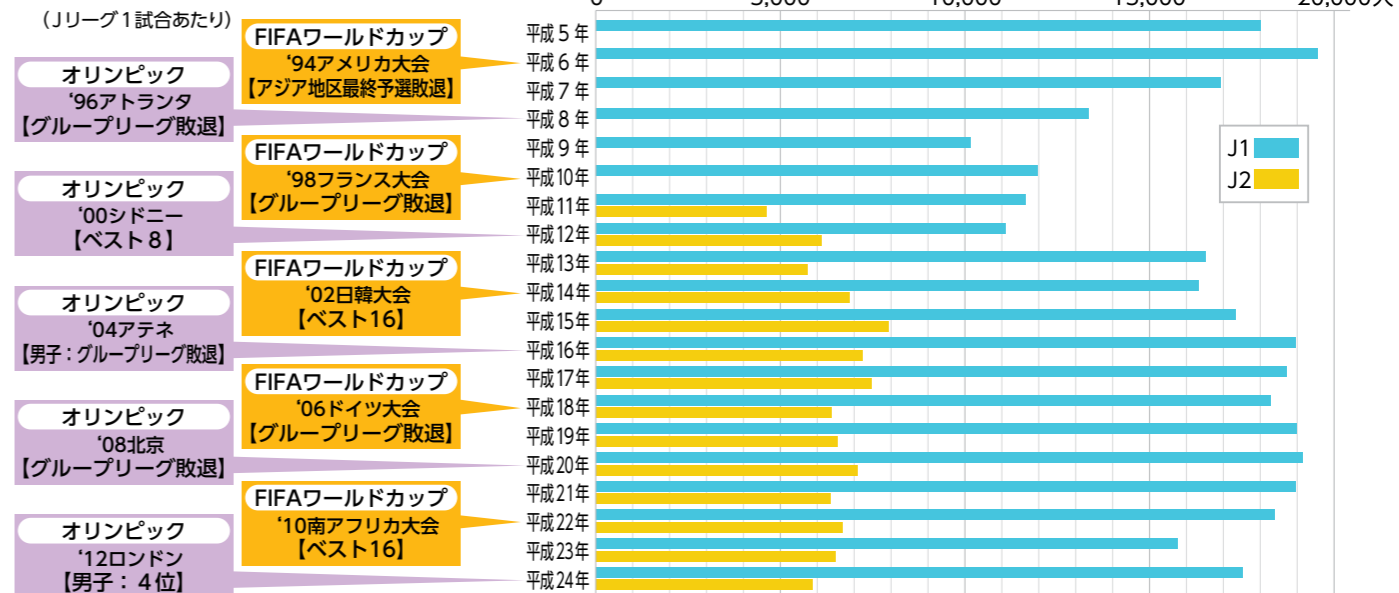
国立競技場事業課

国立競技場では、平成24年を「Jリーグ開幕」から20年、「2002FIFAワールドカップ(日韓共催)」から10年という、日本サッカー界における節目の年と位置付け、2002FIFAワールドカップ開催会場を対象とし、以下のテーマに基づく調査研究を行いました。

スタジアムの変遷をたどることで、施設利用者、観客、地域社会等から求められるスポーツ施設のあり方を探り、またその結果を施設関係者・スポーツ関係者に提供することによって、施設改修や大規模スポーツ大会時の参考資料となるようにまとめました。

調査概要	
■テーマ	「Jリーグ開幕」及び「2002FIFAワールドカップ開催」からのスタジアムにおけるソフト面・ハード面の変遷を調査し、10年・20年の記録としてまとめる。
■期間	平成24年11月～平成25年3月
■対象	大分銀行ドーム／ノエビアスタジアム神戸／ヤンマースタジアム長居／エコパスタジアム／デンカビッグスワンスタジアム／日産スタジアム／埼玉スタジアム2002／茨城県立カシマサッカースタジアム／ひとめばれスタジアム宮城／札幌ドーム ※本調査で記載のスタジアム呼称等に関しては、平成26年7月時点での呼称を表記しております。
■方法	アンケート及びヒアリング
■調査報告	本誌へ掲載 (各回2スタジアム、計5回)

年間入場者平均の推移



オリンピック '96アトランタ
【グループリーグ敗退】

FIFAワールドカップ '94アメリカ大会
【アジア地区最終予選敗退】

オリンピック '00シドニー
【ベスト8】

FIFAワールドカップ '98フランス大会
【グループリーグ敗退】

オリンピック '04アテネ
【男子:グループリーグ敗退】

FIFAワールドカップ '02日韓大会
【ベスト16】

オリンピック '08北京
【グループリーグ敗退】

FIFAワールドカップ '06ドイツ大会
【グループリーグ敗退】

オリンピック '12ロンドン
【男子:4位】

FIFAワールドカップ '10南アフリカ大会
【ベスト16】



サッカー界の変遷

まず、スタジアムの変遷をたどる上で重要な背景となる日本サッカー界の歴史について調査しました。

右表は、過去24年間の日本サッカー界の歴史について主な出来事、トピックス等を年表にまとめたものです。

また、右上のグラフは、Jリーグ開幕からの年間入場者平均の推移を示したもので、人気の移り変わりを示しています。

これらの背景を踏まえた上で、各スタジアムの変遷について調査を行いました。

写真提供: 日刊スポーツ新聞社



平成5年5月15日 Jリーグ開幕セレモニー

	主な出来事	トピックス	Jリーグ以外の大規模大会
平成元年度～平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年 JFAが「プロリーグ準備検討委員会」設置。3年後にプロリーグ発足を目標とした。2002FIFAワールドカップ開催候補の意思表示、招致活動開始 平成3年11月 社団法人日本プロサッカーリーグが正式に発足 平成4年5月 Jリーグプレ開幕戦として第1回ヤマザキナビスコカップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年 Jリーグは、理念・活動方針として【日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進/豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与/国際社会における交流及び親善への貢献】を掲げた。 平成4年 天皇杯はJリーグ所属チームおよび9地域代表の全32チームに出場権が与えられた。 	
平成5年度～平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年5月15日 Jリーグ開幕。プロサッカー初のリーグ戦スタート (10クラブ) 平成5年 FIFAワールドカップアメリカ大会 アジア地区最終予選敗退 (ドーハの悲劇) 平成8年 「Jリーグ百年構想」をキーワードとした広報活動開始 平成8年5月 2002FIFAワールドカップ日韓共催決定 	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年5月15日 Jリーグ開幕。国立競技場に59,626人が来場した。この日のチケットは抽選制で、チケットには購入者の名前が刻印され、記念となるように考案された。 公認グッズ店が爆発的人気・チアホーンによる騒音問題が表面化 	<ul style="list-style-type: none"> 平成8年 アトランタオリンピック (グループリーグ敗退)
平成9年度～平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年 FIFAワールドカップフランス大会に日本初出場 平成11年 J1、J2の1・2部制開始 平成12年 FIFAクラブ世界選手権2000(第1回大会)開催 	<ul style="list-style-type: none"> 平成9年 日本初のサッカーナショナルトレーニングセンター「ヴィレージ」が福島にオープン 平成11年10月 横浜マリノスと横浜フリューゲルスが合併。他のクラブでも出資企業が撤退するなど、メディアではクラブの経営危機が喧伝された。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年 FIFAワールドカップフランス大会 (グループリーグ敗退) 平成12年 シドニーオリンピック (ベスト8)
平成13年度～平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年 toto(スポーツ振興投票)の導入開始 平成14年 FIFAワールドカップを日本と韓国が共同開催 	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年 選手育成プロジェクトとして「Jリーグアカデミー」、選手のセカンドキャリアの支援として「Jリーグキャリアサポートセンター」を始める。 平成15年 「Jリーグ百年構想」の一環で、芝生をモチーフにした「Mr.ピッチ」によるプロモーションを展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年 FIFAワールドカップ日韓大会 (ベスト16) 平成16年 アテネオリンピック (男子:グループリーグ敗退/女子:ベスト8)
平成17年度～平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年 J1が2ステージ制から1ステージ制へ 平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会に日本代表出場 平成19年 FIFAクラブワールドカップで浦和レッズ3位 平成20年 FIFAクラブワールドカップでガンバ大阪3位 	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年 エリート育成機関「JFAアカデミー福島」開校 平成19年 イレブンミリオンプロジェクト開始。「2010年シーズンに年間1100万人の観衆を集めよう」という目標を掲げ、キャンペーンを展開。※結果、総入場者は864万5762人 	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会グループリーグ敗退 平成20年 北京オリンピック (グループリーグ敗退)
平成21年度～平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカに日本代表出場 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年3月 Jリーグ公式試合通算入場者数が1億人を突破 平成24年 <ul style="list-style-type: none"> Jリーグクラブライセンス制度施行 公益社団法人日本プロサッカーリーグに移行 Jリーグ20周年特別企画 開幕戦をネット放送 J1昇格プレーオフ、J2・JFL入替戦制度 	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカ大会 (ベスト16) 平成23年 FIFA女子ワールドカップドイツ大会 (優勝) 平成24年 ロンドンオリンピック (男子:4位/女子:銀メダル)

※年表中のチーム名に関しては、当時の名称にて表記しています。



調査対象スタジアム

(FIFAワールドカップ開催スタジアム)

掲載予定

- 第1回……大分銀行ドーム
ノエビアスタジアム神戸
- 第2回……ヤンマースタジアム長居
エコパスタジアム
- 第3回……デンカビッグスワンススタジアム
日産スタジアム
- 第4回……埼玉スタジアム2002
茨城県立カシマサッカースタジアム
- 第5回……ひとめぼれスタジアム宮城
札幌ドーム

ノエビアスタジアム神戸

- 開 場：平成13年 ●収容人員：30,132名
- 所 有 者：神戸市
- グループL 6/5 ロシア×チュニジア (2-0)
- グループL 6/7 スウェーデン×ナイジェリア (2-1)
- 決勝T 6/17 ブラジル×ベルギー (2-0)

大分銀行ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：40,000名
- 所 有 者：大分県
- グループL 6/10 チュニジア×ベルギー (1-1)
- グループL 6/13 メキシコ×イタリア (1-1)
- 決勝T 6/16 スウェーデン×セネガル (1-2)

デンカビッグスワンススタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：42,300名
- 所 有 者：新潟県
- グループL 6/1 アイルランド×カメルーン (1-1)
- グループL 6/3 クロアチア×メキシコ (0-1)
- 決勝T 6/15 デンマーク×イングランド (0-3)

ヤンマースタジアム長居

- 開 場：昭和39年 ●収容人員：47,816名
- 所 有 者：大阪市
- グループL 6/12 ナイジェリア×イングランド (0-0)
- グループL 6/14 チュニジア×日本 (0-2)
- 決勝T 6/22 セネガル×トルコ (0-1)

エコパスタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：50,889名
- 所 有 者：静岡県
- グループL 6/11 カメルーン×ドイツ (0-2)
- グループL 6/14 ベルギー×ロシア (3-2)
- 決勝T 6/21 イングランド×ブラジル (1-2)

日産スタジアム

- 開 場：平成10年 ●収容人員：72,327名
- 所 有 者：横浜市
- グループL 6/9 日本×ロシア (1-0)
- グループL 6/11 サウジアラビア×アイルランド (0-3)
- グループL 6/13 エクアドル×クロアチア (1-0)
- 決勝T 6/30 ブラジル×ドイツ (2-0)

札幌ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：53,738名
- 所 有 者：札幌市
- グループL 6/1 ドイツ×サウジアラビア (8-0)
- グループL 6/3 イタリア×エクアドル (2-0)
- グループL 6/7 アルゼンチン×イングランド (0-1)

ひとめぼれスタジアム宮城

- 開 場：平成12年 ●収容人員：49,000名
- 所 有 者：宮城県
- グループL 6/9 メキシコ×エクアドル (2-1)
- グループL 6/12 スウェーデン×アルゼンチン (1-1)
- 決勝T 6/18 日本×トルコ (0-1)

茨城県立カシマサッカースタジアム

- 開 場：平成5年 ●収容人員：40,728名
- 所 有 者：茨城県
- グループL 6/2 アルゼンチン×ナイジェリア (1-0)
- グループL 6/5 ドイツ×アイルランド (1-1)
- グループL 6/8 イタリア×クロアチア (1-2)

埼玉スタジアム2002

- 開 場：平成13年 ●収容人員：63,700名
- 所 有 者：埼玉県
- グループL 6/2 イングランド×スウェーデン (1-1)
- グループL 6/4 日本×ベルギー (2-2)
- グループL 6/6 カメルーン×サウジアラビア (1-0)
- 決勝T 6/26 ブラジル×トルコ (1-0)

- 今回掲載スタジアム
- 次回掲載スタジアム

大分銀行ドーム (大分スポーツ公園総合競技場)



所有者：大分県

管理運営者：大分県（指定管理者 株式会社大宣）

所在地：〒870-0126 大分県大分市大字横尾1351番地

●特徴

大分銀行ドームは、大分スポーツ公園の中核をなし、天然芝のフィールド、第1種公認競技場(9レーン)、開閉式屋根を備えた全天候型スタジアムであり、Jリーグ大分トリニータのホームスタジアムとなっている。

●競技場概要

供用開始：平成13年5月24日（総合競技場）

建設費：251億円（総合競技場）

スタンド構造：鉄骨造及び鉄筋コンクリート造、地上3階・地下2階

収容人数：40,000名（竣工時：43,000名）

芝生面積：7,597㎡（107m×71m）

芝生：ティフトンバミュダグラス

ペレニアルライグラス

周辺施設：サブ競技場（だいぎんグラウンド）

投てき場（だいぎんフィールド）

サッカー・ラグビー場

（だいぎんサッカー・ラグビー場）

テニスコート（だいぎんテニスコート）

軟式野球場（だいぎんスタジアム）等

●開催実績

- ・2002FIFAワールドカップ（平成14年）
グループリーグ：6月10日 チュニジアVSベルギー(1-1)
グループリーグ：6月13日 メキシコVSイタリア(1-1)
決勝トーナメント：6月16日 スウェーデンVSセネガル(1-2)
- ・キリンカップサッカー（平成13年）
- ・キリンチャレンジカップ（平成15・17・19・21年）
- ・2005JOMOオールスターサッカー（平成17年）
- ・第20回全国都市緑化おおいたフェア（平成15年）
- ・全日本実業団対抗陸上競技選手権大会（平成18年）
- ・日本ジュニアユース陸上大会（平成19年）
- ・国民体育大会、全国障害者スポーツ大会（平成20年）
- ・全日本中学校陸上選手権大会（平成21年）
- ・高校インターハイ／総合開会式、陸上大会（平成25年）

●コンサート実施回数……4回

- ・B'z
- ・a-nation
- ・Mr.Children
- ・EXILE



ており、バリアフリー構造はもちろんのこと、車椅子対応型エレベーターやトイレ、車椅子専用観客席214席（車椅子専用駐車場11台、Jリーグ時は30台追加）、難聴者対応観客席（解説放送可）144席が設置されている。

開設当初は110m×74.7mのピッチのみで球技場として使用され、ピッチの周囲は人工芝であった。W杯終了後、平成20年の国民体育大会の開催に備えて、陸上競技用トラック9レーン・フィールド競技設備の増設、可動席の一部撤去を行った。この段階では、補助競技場が未整備だったため、日本陸上競技連盟第2種公認競技場であったが、平成18年1月に補助競技場が整備されたことにより、第1種公認競技場となった。

こうして、「健やかで、活力を高める県民総スポーツ振興」を基本理念にした複合型スタジアムが完成し、サッカー・陸上などの各種スポーツ競技、コンサート等に多目的に利用され、大分県のランドマークとして輝きを放っている。

このように開設当初はW杯仕様のスタジアムであったが、平成20年度の県民総スポーツ振興に向けた施設整備が順次行われ、時代のニーズに合わせた改修も行われている。

その構造は、開口部の小さい屋根に覆われ、半地下型となっていることもあって芝生には厳しい条件であるが、長年にわたる管理技術の蓄積により、スタジアム独自の育成手法が確立されている。平成25年度には芝生の全面張替も行った。

観戦環境

平成15年度

- 記者席（397席）・テレビジョンコンパウンド（270席）・可動席前面の撤去→40,000席に減席
撤去した可動席前面のうち、2,000席を「だいぎんサッカー・ラグビー場」に移設した。

平成20年度

- オストメイト対応トイレ2基設置
生活弱者などに考慮した優しい造りとなっている。

平成21年度

- 喫煙コーナー撤去
ドーム内は全面禁煙とし、大会時は屋根の軒下部分（フェンス外）に臨時喫煙所を設けている。

平成24年度

- ドーム内各諸室の案内板設置

施設設備

平成17年度

- 自家発電装置の設置
電力基本料金削減のため（デマンドピークカット）
イベントの有無による電力量偏差を考慮して設置

平成22年度

- 太陽光発電装置の設置
経済産業省「県次世代エネルギーパーク構想」
- 可動屋根修理

平成24年度

- 大型映像装置をハイビジョン化（LED）
- アリーナ音響設備の整備

平成25年度

- 可動屋根制御部改修工事
- 可動席点検工事（設置、収納）

芝生・トラック

平成14年度

- W杯スタジアムから陸上競技場への改修として、陸上トラックの増設等、芝生面積縮小工事

1 建設から現在に至るまでの歴史

～「健やかで、活力を高める県民総スポーツの振興」を
基本理念に自然と調和したエコスタジアムの建設～

大分県長期総合計画で、国民体育大会や国際スポーツに適した施設の必要性がうたわれるなか、平成3年に2002FIFAワールドカップ日本招致委員会が設立され、その翌年（平成4年）大分県での2002FIFAワールドカップ開催を要望する県民12万人の署名が知事に提出された。その熱意が裏、平成5年に開催候補地として決定し、平成8年に日本サッカー協会（JFA）理事会で開催地のひとつに選定された。

平成10年5月に大分スポーツ公園メインスタジアムの建設が着工され、平成13年3月に総合競技場（当時の通称ビッグアイ）が完成した。その外観は球体をモチーフとしたなだらかなスライド式の開閉式屋根を備えてお

り、テフロン膜の高い透光性により、雨天の閉鎖時でも自然光が射す構造となっている。

屋根があることにより、雨や風の影響を受けにくく、室内イベントの開催など、競技環境だけではなく、観戦環境も安定している。なかでも、風の影響が記録を大きく左右する陸上競技には好評であり、特に中長距離種目でベストの記録が出ると言われている。

メインスタンド・バックスタンドは2層式、サイドスタンドは1層式で、ワールドカップのスタジアム基準を満たすため、全席椅子席で、固定席34,000席、可動席9,000席の43,000席で供用を開始した。

また、障害者・高齢者・子供連れの方にも配慮され



スポーツ施設調査「2002 FIFAワールドカップ開催スタジアム10年の変遷」

ノエビアスタジアム神戸



所有者：神戸市
管理運営者：神戸ウイングスタジアム株式会社
所在地：〒652-0855 兵庫県神戸市御崎町1-2-2

●特徴

国内最大級の開閉式屋根を持つ全天候型・球技専用スタジアム。市街地内部に位置することから、周辺環境に対してよりローインパクトであるようにコンパクトな球体フォルムとなっている。省エネ・省資源・メンテナンス性・コストパフォーマンス性が及ぼされた構造となっている。

●競技場概要

開場：平成13年
建設費：230億円
スタンド・構造：鉄筋コンクリート造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造、地上7階
収容人員：30,132名
芝生面積：8,208平方メートル（72m×114m）
芝生：寒地芝（ケンタッキーブルーグラス）
付帯設備：スポーツクラブ、レストラン、コンファレンスルーム、ウイングギャラリー等

●開催実績

- ・2002FIFAワールドカップ（平成14年）
グループリーグ：6月5日ロシアVSチュニジア(2-0)
グループリーグ：6月7日スウェーデンVSナイジェリア(2-1)
決勝トーナメント：6月17日ブラジルVSベルギー(2-0)
- ・格闘技イベント「イノキボンパイエ2003」（平成15年）
- ・キリンチャレンジカップ（平成15、20、23、24、25年）
- ・アメリカンフットボール日本社会人選手権決勝（平成16年）
- ・キリンカップサッカー（平成18年）
- ・北京オリンピック壮行試合（平成20年）
- ・日韓女子リーグチャンピオンシップ（平成24年）

●コンサート実施回数……7回（平成25年度まで）

- ・川嶋あい（平成17年）
- ・震災10年神戸からの発信フィナーレコンサート（平成17年）
- ・演歌祭り（平成21年より毎年開催）

1 建設からFIFAワールドカップ開催までの歴史

～阪神・淡路大震災を乗り越えて～

現在のノエビアスタジアム神戸の前身である「神戸市立中央球技場」は、神戸競輪場の跡地である御崎公園内に、日本初の夜間照明を備えた球技専用スタジアム（22,100人収容）として昭和45年に完成した。昭和63年に神戸外国人クラブと横浜外国人クラブの間で日本初の対抗戦が開催されたことなどから、神戸はサッカー発祥の地とも呼ばれており、神戸市開港100年を記念した一大プロジェクトの一環であった。神戸市中央球技場では、ワールドユースサッカーやユニバーシアード神戸大会などが開催され、世界の名選手による名勝負が繰り広げられたが、平成7年の阪神淡路大震災により施設も大打撃を受けた。再整備を検討する中、2002FIFAワールドカップの試合開催地に神戸市が選ばれると全面改修に向け動き出した。こうして「神戸市立中央球技場」は平成10年に28年間の幕を閉じた。

一般公募で愛称が決定した「神戸ウイングスタジアム」

は市が主要な施設整備を行い、民間が設計・施工、建設後の運営管理を実施するという公設民活方式という新手法を導入し、平成11年10月より全面改修工事がスタートした。ワールドカップ終了後には、神戸アスリートタウン構想の拠点施設であり、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールの聖地とする「スリーフットボールの聖地」となるべく事業が計画された。平成13年10月に完成し、運営会社として神戸製鋼（60%）と大林組（40%）の出資による「神戸ウイングスタジアム株式会社」が設立された。スタンドの座席からピッチまでの距離は、最も近いバックスタンド側ではわずか6mで、臨場感を味わえる観戦環境が特徴である。また市街地内部に位置することから、周辺環境に対してローインパクトの外観となっている。

こけら落としは平成13年11月24日に行われたJリーグ・ヴィッセル神戸vs横浜マリノス戦であった。また同

平成15年度

- 芝生拡張工事107m×71m
- 第2種公認陸上競技場となる。

平成17年度

- 第1種公認陸上競技場
- 第3種公認陸上競技場（補助競技場）

平成19年度

- 陸上トラック全面改修（国体に向けて）

平成20年度

- 芝生の全面張替

平成24年度

- トラック1レーン改修・ライン塗り替え（インターハイに向けて）

平成25年度

- 芝生の全面張替

2 ソフト面の変化・チームとの関係性

～ソフト面の変遷、クラブ・サポーターとのかかわりについて～

FIFAワールドカップ開催時、最大の課題は交通・輸送対策であると懸念されていた。1試合あたり4万人もの観客をいかにスムーズに輸送するか、県・バス協会・タクシー協会・鉄道関係者等でかなりの時間をかけて検討された結果、複数の最寄りの駅から630～700台のシャトルバスを遅滞無く安全に運行し、FIFAから極めて高い評価を得た。

この貴重な経験は、その後のサッカー日本代表戦、コンサート、Jリーグ、国体、インターハイなどの大型イベント時の輸送にも生かされており、周辺駐車場利用を中心とした地域のイベント開催にも展開されている。

また、大会ボランティアには2,000人を超える応募があり、20種類もの業務にて従事し、大会成功の一助となり、現在も大分トリニータのホームゲームや多くのボランティア活動に引き継がれている。

施設管理としては、開業当初は県の外郭団体であった「大分スポパーク21」が、その後は「大分県文化スポーツ振興財団」が行っていたが、平成18年4月1日以降は、広告代理店の株式会社大宣が、指定管理者となっており、公園内の花植え、草刈や清掃、自然観察会など、地域住民とも協働しながら、県民に愛される大分スポーツ公園を目指している。

当スタジアムは、ネーミングライツにより平成18年から「九州石油ドーム」、平成22年からは「大分銀行ドーム」の名称で親しまれている。また、ここをホームスタジアムとして県民・企業・行政『三位一体』により誕生した大分トリニータは、今年創立20周年を迎え、さらに県民に愛されるチームを目指して着実な歩みを進めている。

スポーツの振興、県民の元気の源、地域の活性化、経済波及効果など大分銀行ドームを舞台として、県内外に情報発信し続ける大分トリニータに、今後も大きな期待が寄せられている。

【大分トリニータの主な歴史】

- ・平成6年 大分トリニティとしてクラブ設立、県リーグ1部優勝
- ・平成7年 九州リーグ優勝
- ・平成8年 JFLへ昇格
- ・平成11年 大分トリニータとしてJ2参戦
- ・平成14年 J1昇格
- ・平成20年 ナビスコカップ優勝（リーグ戦4位）
- ・平成21年 J2降格
- ・平成24年 J1昇格、プレーオフ優勝（リーグ戦6位）
- ・平成25年 J2降格

る大分スポーツ公園の中核施設として防災機能の充実を目指す。

3 今後の展望と課題

多くのスポーツ大会やイベントの継続的開催により、スタジアムの利用者をさらに増やすとともに、大分県地域防災計画において広域防災拠点に位置付けられてい

年、天皇杯の準決勝も開催された。

神戸市はFIFAワールドカップ開催に向けて、阪神淡路大震災の際に世界の人々に復興の姿をみせるべく、大会気運醸成のためさまざまなイベントやポスター展示、観光ガイドマップやミニ会話集の配布などに取り組んだ。大会では、約2,000人のボランティアが協力し、平成15年以降もスタジアムボランティアとして400名ほどが再エントリーをし、現在でもスタジアムボランティアや、ヴィッセル神戸のチームボランティアとしてイベントを支えている。

グループリーグ2試合と決勝トーナメント1回戦1試合の計3試合が行われた。3試合目のブラジルvsベルギー戦では、結果こそ2-0であったが、王者ブラジルに対してベルギーが果敢に攻め込み、スタジアムは熱狂の渦に包まれた。たくさんの観客が会場に詰めかけたが、スタジアム建設前から信頼関係を構築してきたボラ



ンティアの協力のもと円滑に管理をすることができ、大成功に終わった。また、障害者団体などが調査したワールドカップ10会場のバリアフリー度調査では、車椅子席のサイトライン（車椅子の目線からフィールドを結ぶ線）が高く評価され、また最寄り駅からのアクセスを含む総合点では1位を記録し、ハード・ソフト面から観客に優しいスタジアムであることが証明された。

2 FIFAワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

～事業運営を継続するために～

ワールドカップ開催の翌月から第二次整備工事がスタートし、平成15年3月25日に新生スタジアムとなった。

(1) 観戦・施設設備

a スタンド

- 座席数を42,000席から、30,132席へと改修（平成14年）
- 各座席に、温冷風が出る空調設備を搭載（平成14年）
- 南西コーナー部に4人用と6人用をそれぞれ4ヶ所、ファミリーボックスを導入（平成20年）
- VIP席を370席から346席に縮小しそれぞれの座席幅などを拡大、クッション性の高い素材にし、色はヴィッセル神戸のチームカラーであるクリムゾンレッドに（平成23年）

b サイン関係

- 場内売店用電飾看板設置（平成22年）

c トイレ

- 計324ヶ所のトイレを一方通行式にし、試合時の混雑緩和を目指した（平成15年）

d 新設

- アフタースポーツケア施設、研修施設、パノラマレ

ストラ、ギャラリーを新設（平成14年）

- スライド開閉式可動屋根を設置。天井はワイヤートラクション方式で稼働し、20分間で全開・半開・全開の3段階への切り替えを可能とした。（平成14年）
- LED大型映像装置へ更新（平成22年）
- ウォーミングアップ室に空調設備導入（平成24年）

(2) 芝生

- 可動式屋根により日照・風不足となり芝生の状態が悪化し、夏芝に冬芝をオーバーシーディングする方式から冬芝で一年を通じて管理する方式に変更。「スリーフットボールの聖地」を目指したが、芝を良好な状態に管理できずアメフトでの利用は停止に（平成16年）
- 固定式送風機装置を6基設置（平成16年）
- 南北サイドスタンド上部の壁に通風窓を設置（平成17年）
- ピッチ外天然芝の人工芝化第一段階として南北サイドスタンド側をロングパイルに改修（平成18年）
- 人工芝化第二段階として、メインスタンド側をロングパイルに改修（平成20年）

3 ソフト面の変化・チームとの関係性

～都市型スタジアムと地域とのあり方～

神戸ウイングスタジアムは、サッカー・ラグビー・アメリカンフットボールの「スリーフットボールの聖地」となるべく事業が計画されたが、芝生維持管理の難しさからアメフトの利用停止を余儀なくされた。現在では、サッカーでヴィッセル神戸とINAC神戸レオネッサのホームスタジアムとして利用され、またラグビートップリーグでは神戸製鋼コベルコスティーラーズの試合が開催されている。スタジアム内1Fにあるウイングギャラリーでは、2002FIFAワールドカップのグッズ等が常設されているが、サッカー・ラグビーの試合期間には、特別展としてそれぞれヴィッセル神戸、INAC神戸レオネッサや神戸製鋼コベルコスティーラーズのグッズ等が展示される。

南サイドスタンドの一部には「床発電システム」が据えつけられており、試合観戦時、観客が飛び跳ねることで床に設置した発電装置を稼働させるという仕組みである。この時発生した電力は試合終了後、観客誘導用の照明等に使われる。

平成17年シーズンから、観客席に命名権を導入した。ヴィッセルのホームゲーム開催時に限り、メインスタンドとバックスタンドに企業名を冠し、広告収入はヴィッセルの運営会社である株式会社クリムゾンフットボールクラブが授受するというものである。メインスタンドはヴィッセルのスポンサーでもある楽天、バックスタンドは同じくヴィッセルのスポンサーである川崎重工業となり、それぞれ「楽天スタンド」「Kawasakiスタンド」と

案内されていた。川崎重工業は平成18年までの2年契約で更新されなかった。

その後、平成20年シーズンからスタジアムに命名権が導入された。スタジアム名称は「神戸ウイングスタジアム」から「ホームズスタジアム神戸」に変わり、平成25年シーズンからは「ノエビアスタジアム神戸」となっている。

ヴィッセル神戸は平成21年シーズンより対戦相手によってチケット価格が異なる制度を導入している。なお、A試合の対象試合はB試合のそれに比べて価格が大人で1,000円、小中生で500円高くなっているのが特徴である。J2所属となった平成25年シーズンでは導入していない。

神戸のスポーツ文化の醸成と発展のため、運営会社は多くの自主事業を手がけている。地域との取り組みは、神戸ウイングスタジアム改修完成前の平成12年、工事中の外壁に小学生の絵を展示する「御崎アートストリート」より始まった。平成16年にはスタジアムで初めて成人式が行われ、開催10回目となった平成25年では、震災黙祷、市長や新成人代表のメッセージ、ライブなどが行われ10回目にふさわしい式典となった。

その他にも、落語イベント「ウイング寄席」や「演歌まつり」、足型レリーフの設置、天然芝体験会、ウイング健康フェスタなど多種多様な事業が催され、ノエビアスタジアム神戸は神戸市の顔となっている。

4 今後の展望と課題

～ノエビアスタジアム神戸の未来～

当スタジアムの課題は、一定レベルのスポーツターフを維持しつつ、当スタジアムをホームとしているヴィッセル神戸、INAC神戸レオネッサや神戸製鋼コベルコスティーラーズの試合を着実に開催し、使用日数を増加させることである。そのためには、夏季の芝生張替面積の縮小や張替期間・養生期間の短縮などをさらに追求して

いく必要がある。また、サッカー国際試合の継続的誘致や芝生の張替計画に合わせた音楽コンサート等文化イベントの誘致も重要な課題である。ホームチームとは定期的に打ち合わせを行い、飲食売店の改善や設備の改善を実施して顧客満足度の向上に努めている。

代々木第一体育館

コンサート	JYP NATION in Japan 2014 -ONE MIC-	(9/5-7)
展示会	rooms29	(9/9-11)
コンサート	ABC-Z ツアー 2014	(9/14,15)
コンサート	Perfume 5th Tour 2014 「ぐるんぐるん」	(9/17,18,20,21)
コンサート	MUCC SIX NINE WARS -ぼくらの七ヶ月間戦争- Final Episode 「THE END」	(9/23)
コンサート	KAT-TUN LIVE TOUR 2014 come Here	(9/26-28)
ファッションショー	GIRLS AWARD 2014 AUTUMN/WINTER	(10/1)
コンサート	AEON presents 25th Anniversary DREAMS COME TRUE CONCERT TOUR 2014	(10/4,5)
コンサート	tv asahi DREAM FESTIVAL 2014	(10/11-13)
体操	第32回全日本ジュニア新体操選手権大会	(10/24-26)
体操	第68回全日本体操競技団体選手権大会	(11/1,2)
太極拳	2014太極拳全国交流大会	(11/3)
コンサート	namie amuro LIVE STYLE 2014	(11/5,6)
コンサート	きゃりーぱみゅぱみゅ 2014 JAPAN ARENA TOUR	(11/8,9)
ヘアカットショー	第11回フューチャーズロード 「デザインパワー」 2014	(11/11)
体操	第67回全日本新体操選手権大会	(11/14-16)
空手	第8回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会	(11/22)
体操	2014 日本体操祭	(11/23,24)
コンサート	SHINee WORLD 2014 (仮)	(11/26,27)

代々木第二体育館

卓球	関東学生卓球秋季リーグ戦	(9/3,11)
ボクシング	ダイヤモンドグローブスペシャル ダブル世界タイトルマッチ	(9/5)
バスケット	第90回関東大学バスケットボールリーグ戦	(9/6,7)
チャリディング	CHEER FESTIVAL 2014	(9/13)
空手	2014全関東空手道選手権大会	(9/14)
ダンス	ICU ASIA OPEN 2014	(9/20,21)
空手	「2014 拳真祭」 ワールド FSA 空手グランプリ	(9/23)
バスケット	第90回関東大学バスケットボールリーグ戦	(9/27,28)
その他	OMOTESANDO COLLECTIONS HAIR TRENDS 2014-2015	(9/30)
空手	国際親善第6回全日本空手道選手権大会	(10/4,5)
バスケット	NBL2014-2015	(10/11,12)
バスケット	東京都実業団バスケットボール選手権大会	(10/13)
空手	2014全日本空手道選手権大会	(10/25,26)
その他	第5回TOKYO BOYS COLLECTION	(10/30)
バスケット	第16回Wリーグ	(10/31)
バスケット	第90回関東大学バスケットボールリーグ戦	(11/1,2,5-7)
格闘技	K-1 WORLD LEAGUE 2014	(11/3)
バスケット	関東実業団バスケットボール選手権大会	(11/8,9)
空手	2014北斗旗 第4回世界空道選手権大会/ 2014第1回世界空道ジュニア選手権大会	(11/14-16)
バスケット	NBL2014-2015	(11/21,22)
バスケット	関東実業団バスケットボール選手権大会	(11/23)
バスケット	第66回全日本大学バスケットボール選手権大会	(11/24-30)

秩父宮ラグビー場

ラグビー	日本代表戦 日本代表 (JAPAN XV) vs マオリ・オールブラックス	(11/8)
ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ2014-2015 1stステージ サントリー vs キヤノン (9/5) NTTコム vs 豊田自動織機, 東芝 vs クボタ (9/6) 東芝 vs NEC (9/12) サントリー vs 神戸製鋼 (9/19) リコー vs コカ・コーラ, キヤノン vs NTTドコモ (9/20) リコー vs トヨタ自動車, サントリー vs NTTドコモ (10/19)	
ラグビー	関東大学対抗戦A 立教大学 vs 帝京大学 (9/13) 明治大学 vs 筑波大学 (9/14) 早稲田大学 vs 明治学院大学 (9/21) 慶應義塾大学 vs 青山学院大学, 筑波大学 vs 早稲田大学 (9/28) 帝京大学 vs 筑波大学 (10/18) 慶應義塾大学 vs 明治大学, 早稲田大学 vs 帝京大学 (11/2) 明治大学 vs 帝京大学 (11/16) 早稲田大学 vs 慶應義塾大学 (11/23) 帝京大学 vs 慶應義塾大学 (11/30)	
ラグビー	関東大学リーグ戦第1部 中央大学 vs 立正大学 (9/13) 流通経済大学 vs 山梨学院大学 (9/14) 法政大学 vs 大東文化大学 (9/21) 日本大学 vs 東海大学 (9/27) 東海大学 vs 大東文化大学 (11/22) 中央大学 vs 流通経済大学 (11/30)	
ラグビー	ジャパンラグビートップイーストリーグ ディヴィジョン1 日本IBMビッグブルー vs セコム, 日野自動車 vs 秋田ノーザンブレッツ (10/26) 栗田工業 vs 横河武蔵野 (11/1) 横河武蔵野 vs ヤクルトLevins (11/15) 栗田工業 vs 東京ガス (11/22)	
ラグビー	その他 第94回全国高校ラグビーフットボール大会 東京都予選決勝 (11/9) 第24回東日本クラブラグビー選手権大会決勝 (11/16)	

味の素フィールド西が丘

サッカー	JR東日本カップ2014 第88回関東大学サッカーリーグ戦	(9/6,14,21,10/5,19,26,11/16)
サッカー	プレナスチャレンジリーグ2014 Bブロック: 第17節 スフィーダ世田谷FC vs AC長野パルセイロ・レディース (9/20)	
サッカー	Jリーグディビジョン2 第35節 横浜FC vs 松本山雅FC (10/4)	
その他	「体育の日」中央記念行事 スポーツ祭り2014 (10/13)	

スケジュールは変更になる場合がありますので、
ウェブサイト等で必ずご確認ください。
<http://www.jpnsport.go.jp>

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館移転のお知らせ

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館は6月末に国立競技場から足立区の綾瀬に移転しました。移転先の綾瀬倉庫には博物館の収蔵品約6万点、図書館資料約10万冊が収められています。新しい国立競技場が完成するまで博物館は長期休館となりますが、図書館は資料の閲覧サービスを行います(資料の閲覧は予約制となります)。閲覧室の利用方法等につきましては、当館ウェブサイト (<http://www.jpnsport.go.jp/muse/>) をご覧ください。



博物館・
図書館
事務所入口

国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171) 秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)
味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

【編集後記】

本誌の発行は、1958年の創刊から2014年3・4月まで602回を数えるまでに至りました。半世紀以上の間、愛読いただいている皆様へ紙面をとおして、国立競技場の時々の姿をお伝えしてまいりました。2014年度からは、年3回(今年度は9月、12月、3月)の発行とさせていただきますことになり、年間の発行回数は減りますが、新たな国立競技場が誕生する2019年3月まで、先人の意思を受け継ぎ、未来への貴重な記録として、編集者一同紙面をとおして、国立競技場の「今の姿」をお伝えしてまいりたいと思っております。引き続きご愛読のほど宜しくお願いいたします。(HN)

国立競技場 第603号

2014年9月1日発行

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35

tel 03-5410-9121

●編集協力 株式会社ジャニス

